

●平成8年第3回市議会では、矢島収入役、田中教育長の再任等32議案が上程され私は会派代表質問に立ちました。6月の一般質問でもふれた学園都市センターの管理委託費が年間約3億に対し収入見込みがわずか1,700万で直営と変わらないと指摘し、近年確かに正職員増はありませんがこのような外部団体の職員が大巾に増え委託料の名目で人件費がかさむ傾向を質しました。管理職を2名も派遣するのも納得ができず、このような施設こそ若い職員を送り民間の感覚を身につけるべきと再度提案しました。

●決算審査特別委員会では外国人留学生の奨学金について、現在の無条件で全ての留学生への方式を改め、学長の推薦や論文の提出など一定の条件のもと希望者に給付するよう求めました。十数年前ロータリークラブの皆さんの寄附を基金に始めた制度ですが年々学生数も激増し一般会計からの持ち出しも4千万近くになってしまいました。決して悪い制度ではありませんが、当の留学生は大部分がなぜもらえるかもわからず帰国してしまう始末です。スタート時の市民の真心が伝わる様に原点に戻すべきです。

●文教経済委員会では教育委員会が配布した幼稚園保育料減免申請書の記入例に「大庭嘉門」(オオバカモン)と例示していた事件が社会問題になり閉庁日に委員会開催という異例の事態となりました。市職員という最大のサービス業にいる自覚が薄く、カジュアルフライデー等でもだらし無いただけの職員も目立ち、改めて公務員としてのモラルと綱紀粛清を厳しく求めました。

●小選挙区制による初の総選挙で小林多門代議員が誕生しました。この道では大先輩ですが半年にわたり党の公認争いをした私としては正直わだかまりもあり複雑な心境でおりましたが八王子の為を信じてお手伝いをしました。本市の抱える問題に大いに国政の場からがんばってもらいたいと思います。